

1 貧困をなくそう

1 NO POVERTY



地球上のあらゆる形の貧困をなくそう



© UNICEF/UN016296/GILBERTSON VI

将来のことなんて考えられない

ナイジェリア

ゴミため場で売れるものを探す国内避難民ムハマド・モズさん(15歳)。2、3日かけてようやく80~110円を得ます。2年前過激派がおそった村から逃げ出し、学校に行っていません。学費が無料でもその他のお金が払えないからです。ムハマドさんは将来について考えることすらできないと言います。



貧困の実態

1990年に世界中で19億人いたといわれる極度の貧困状態です。2015年には、8億3,600万人と半分以下に減少しました。けれどまだ、多くの人が一人1日あたりの生活費が1.90ド

ル*(1ドル=110円で約210円)未満という状況です。これでは住まいや食事、教育などを十分にまかなうことはできません。

*以下、本文中のドルはアメリカドルをします。

貧困とは

SDGsで最初にかかげた目標1は、地球上のあらゆる形の「貧困」をなくそうというものです。「あらゆる形の」とすることで、「だれひとり取り残さない」というSDGsの基本理念がここに反映されています。どのような状態のことを貧困というのでしょうか。これは、人によって思いがけるイメージもちがいますし、国、地域によってもさまざまです。1日1.90ドル未満というような、どこの社会にいても、日々の生活にも困るような状況は、極度の貧困、または、「絶対的貧困」と呼ばれます。それに対して、その社会で「普通」とされる生活を送ることが難しいような状況を、

「相対的貧困」と呼び、日本のような先進国の貧困には、この考え方をあてはめます。「貧困」は、金銭(お金)の面で考えることが多いのですが、さまざまな意味で生活への影響があることから、お金の面だけでなく、健康、教育、生活の安全、住まいの環境といったこともふくめて、広い意味で「貧困」ととらえるという考え方もあります。

注)1日あたり1.90ドルというのは、金銭的な貧困を測る基準として一般に使われる世界銀行の「国際貧困ライン」と呼ばれるものです。定期的に見直されるため、SDGsが採択された時点では、1日あたり1.25ドルとされていました。



自宅の前でたずむイエメンの子どもたち

© UNICEF/UN013965/Shamsan